

元気なまちかど

No.1 朱雀門、大仏が光で復活

紫香楽宮 都あかり

「紫香楽宮 都あかり」が10月21日と22日、雲井地域で催されました。
 隼人川みずべ公園では、LEDイルミネーションで公園一帯が飾り付けられ、当時に思いをはせた立体型の「朱雀門」が暗闇から浮かび上がりました。
 甲賀寺跡では、雲井小学校の6年生も制作に参加した「ねぶた大仏」の頭部が、黄色い光を放って来場者を迎えました。

また、約4千個の透光陶器も両会場に散りばめられ、幻想的な空間に包まれていました。



▲隼人川みずべ公園の「朱雀門」



甲賀寺跡に展示された「ねぶた大仏」▶

No.2 自分だけの陶器を作ろう

ふれあい親子陶芸教室

ふれあい親子陶芸教室が10月22日、甲南ふれあいの館で開催され、小学生・園児とその保護者9人が参加しました。

信楽焼の土で、カップや皿、来年の干支である酉などの陶器作りに挑戦しました。

最初は苦戦している子どももいましたが、「自分の手で、自分の思いを込めた作品になるように頑張る」と、陶芸ボランティアさんのアドバイスを受けながら、それぞれが思い思いの作品を作り上げました。

今回作った作品は12月下旬に焼き上がり、子どもたちの元に届きます。



▲ボランティアさんのアドバイスを受けながら陶芸に挑戦する児童

No.3 韓国利川市で異文化交流

中学生国際交流事業

市内の中学2年生5人が、10月22日から26日まで市の姉妹都市である韓国利川市へ派遣されました。

この事業は、次代を担う中学生が外国の文化を経験し、国際感覚を身に付けることにも、お互いを理解・尊重することの大切さを学ぶために実施されています。

派遣された中学生は、現地の中学生の家に滞在しながら、学校の授業に参加したり、茶道や韓服などの文化体験をしたりと、異文化交流を図りました。

なお、12月には利川市の中学生が本市を訪れる予定です。



▶韓服に身を包む日本と韓国の生徒たち

No.5 バーチャル眼鏡で工事現場を観察

油日小学校バーチャル防災教育

県の「しが学校支援センター」とNPO法人「CESA」による県内初のバーチャル防災教育が10月24日、甲賀町毛枝にある土砂災害防止のための工事現場で行われ、油日小学校の6年生33人が参加しました。

児童たちは、バーチャル眼鏡で目の前に浮かび上がる工事前の仮想（バーチャル）の景色を見て、「すごい」と驚きながら、工事完了間際の斜面と比較して、傾斜地の危険な様子を観察しました。

地元の地層の特徴や工事の重要性を学んだ児童たちにとって、今回の体験は防災への理解を深める貴重な機会となりました。



▲バーチャル眼鏡で工事前の同現場を確認する児童

No.4 仮装した子どもたちが大集合

ハロウィンパーティー

甲賀市国際交流協会主催のハロウィンパーティーが10月23日、忍の里プラザで開催され、小学生など約130人が参加しました。

ハロウィンは、お墓から帰ってくるといわれるお化けを、仮装をして追いかつ古くから伝わる欧米の祭りで、近年日本でも定着しています。

この日は、仮装コンテストが行われるとあって、魔女やミイラのほか、さまざまなアニメのキャラクターなど、趣向を凝らした衣装の子どもたちが集まりました。外国人ゲストと一緒にゲームをしたり、お菓子をもらったりと、少し早いハロウィンを楽しみました。



▲外国人ゲストとゲームを行う仮装した子どもたち

No.6 初ビブリオバトル

図書館まつり2016

図書館まつりが10月30日、甲賀図書館情報館で開催され、今回初めて「ビブリオバトル in Koka」が行われました。

これは出場者が自分のおすすめの本を紹介し、参加者が最も読みたいと思った本に投票をして、チャンプ本を決める書評合戦です。

6人の出場者は緊張しながらも5分間で本の魅力について語り、投票者は熱心に聞き入っていました。投票により、奥田英朗著「イン・ザ・プール」が初代のチャンプ本に決まりました。

他にも木の実クラフトとミニブックトークやハンドベルの演奏などのイベントが催され、多くの家族連れでにぎわっていました。



▲初代チャンプ本となった本を紹介する出場者